

令和 3 年度

学 則

学校法人 愛和学園
愛和システムエンジニア専門学校

愛和システムエンジニア専門学校学則

第 1 章 組 織

(目 的)

第1条 本校は、教育基本法および学校教育法の規定にしたがって商業実務全般に関する専門知識、技能を授けるとともに併せて学生の知性並びに教養を高めその応用力を展開させることを目的とする。

(名 称)

第2条 本校は愛和システムエンジニア専門学校という。

(位 置)

第3条 本校の位置を福岡市博多区博多駅前4丁目21番11号に置く。

第 2 章 課程、学科及び修業年限、定員並びに休業日

(課程、学科、修業年限、定員)

第4条 本校の課程、学科及び修業年限、定員は別表第1のとおりとする。

(学年、学期)

第5条 本校の学年は4月1日（又は10月1日）に始まり翌年3月31日（又は9月30日）に終わる。

2 本校の学期は次のとおりとする。

前 期 4月1日（又は10月1日）から 9月30日（又は3月31日）まで

後 期 10月1日（又は 4月1日）から 3月31日（又は9月30日）まで

(休 業 日)

第6条 本校の休業日は次のとおりとする。ただし、校長は特に必要があると認める場合には、休業日を変更することができる。

1 土曜日および日曜日

2 国民の祝日に関する法律で規定する日

3 夏季休業日 8月 1日から 8月31日まで

4 冬季休業日 12月25日から 1月 7日まで

5 春季休業日 3月20日から 4月 5日まで

第 3 章 教育課程、授業時間数及び教員組織

(教育課程、授業時数)

第7条 本校の教育課程及び授業時数は、別表第2のとおりとする。

(始業及び終業)

第8条 本校の始業及び終業の時刻は午前9時00分から午後5時35分までの2部制とする。
(第1部：午前9時00分～午後1時5分、第2部：午後1時30分～午後5時35分)

(教職員組織)

第9条 本校に次の教職員を置く。

- | | | |
|---|------|-------|
| 1 | 校 長 | 1 名 |
| 2 | 教 員 | 4 名以上 |
| 3 | 講 師 | 1 名以上 |
| 4 | 助 手 | 1 名以上 |
| 5 | 事務職員 | 1 名以上 |
| 6 | 校 医 | 1 名 |

2 校長は、校務をつかさどり、所属教職員を監督する。

(成績評価)

第10条 授業科目の成績評価は、学年末において、各学期末に行う試験、実習の成果、履修状況等を総合的に勘案して行う。ただし、出席時数が授業時数の3分の2に達しない者は、その科目について評価を受けることができない。

第 4 章 入学、休学、退学、卒業及び賞罰

(入学資格)

第11条 本校の入学資格は、高等学校を卒業した者または学校教育法施行規則第183条に該当する者とする。なお日本以外の国籍を有している者の入学資格については、前記に準ずるものとする。

(入学時期)

第12条 本校への入学時期は、第5条1項に定める学年の始めとする。

(入学手続き)

第13条 本校の入学手続きは次のとおりとする。

- 1 本校に入学しようとする者は本校の定める入学願書に必要事項を記載して、第25条に定める入学検定料を添えて指定期日までに出席しなければならぬ。
- 2 前項の手続きを終了した者に対して入学試験を行い入学者を決定する。
- 3 本校に入学を許可された者は入学許可の日から指定期日までに第25条に定める入学金を添えて入学の手続きを取らなければならぬ。

(転 入 学)

第14条 本校への転入学を希望する者がある場合は、学習の進展が同程度であり、かつやむを得ない事情があると認めた場合には、選考の上許可することができる。

(他の専修学校等における学習科目の認定)

第15条 専修学校設置基準、第9条2項、第10条3項、4項の規定により入学を許可された者については、本校専門課程学科目の二分の一を超えない範囲で認定する。

(入学前における学習科目の認定)

第 16 条 専修学校設置基準、第 11 条 3 項、4 項の規定により学習した学科目については本校専門課程学科目として認定する。

(休学・復学)

第 17 条 学生が疾病その他やむを得ない事由によって、30 日以上休学しようとする場合は、その事由及び休学の期間を記載した休学申し出書に、診断書その他必要な書類を添えて申請し、校長の許可を得なければならない。

2 休学した者が復学しようとする場合は、校長にその旨を申し出て、校長の許可を得て復学することができる。

(退学)

第 18 条 退学しようとする者は、その事由を記し、校長の許可を得なければならない。

(課程修了・卒業の認定)

第 19 条 校長は、教育課程で定められた各授業科目について第 10 条に定める学習の評価を行い、一定の評価を受けた者に対して当該科目の修了を認定する。

2 校長は、本校の所定の課程を修了した者に対して、卒業証書を授与する。

(称号の付与)

第 20 条 下記の課程・学科を修了した者には専門士の称号を授与する。

課程名	学科名	告示

第 5 章 公開講座、科目等履修生

(公開講座)

第 21 条 社会人の教養を高め、生涯教育の向上に資するため、本校に公開講座を開設することができる。

2 公開講座に関し必要な事項は、別に定める。

(科目等履修生)

第 22 条 本校の学生以外の者で、一又は複数の授業科目について履修することを志願する者について、本校の教育に支障のない場合に限り、選考の上、科目等履修生として入学を許可し、単位を与えることがある。

2 科目等履修生に関し必要な事項は別に定める。

第 6 章 賞 罰

(褒 賞)

第 23 条 成績優秀にして、他の学生の模範となる者には、褒賞することがある。

(懲 戒)

第 24 条 次の各号の一つ以上に該当する者には、退学を命ずることがある。

- 1 性行不良で改善の見込みがないと認められる者
- 2 学力劣等で成業の見込みがないと認められる者
- 3 正当の理由がなくて出席が常でない者
- 4 学校の秩序を乱し、その他学生としての本分に反した者

第 7 章 入学金、授業料その他

(納 付 金)

第 25 条 ①本校の入学金、授業料は、別表第 3 とするが、各学科の授業料の納入は、前期・後期の 2 回とし、それぞれ各半額を納入するものとする。

②いったん納入した納付金は入学年度の 4 月 1 日以降は、返還しない。

(除 籍)

第 26 条 授業料その他の納付金を 3 ヶ月以上滞納した者や 3 ヶ月以上の長期欠席者は除籍することができる。

(寄 宿 舎)

第 27 条 寄宿舍に関する事項は、校長が別に定める。

(健康診断)

第 28 条 健康診断は、毎年 1 回、別に定めるところにより実施する。

付 則

- 1 この学則の施行に関し、必要な事項は別に定める。
- 2 この学則は令和 3 年 4 月 1 日から施行する。

別表第 1

本校の課程、学科、修業年限及び定員（第 4 条関係）

課程名	昼夜別	学 科 名	修業年限	入学定員	総定員	入学時期
商業実務 専門課程	昼	ＩＴエンジニア学科	2 年	8 0 名	1 6 0 名	4 月

別表第2

本校の教育課程及び授業時間数（第7条関係）

商業実務専門課程

学 科	昼夜 の別	授 業 科 目	必選 の別	週授業時間数		年間授業時間数	
				一年次	二年次	一年次	二年次
ＩＴ エンジニア学科	昼	コミュニケーションⅠ・Ⅱ	必	2	2	68	68
		ビジネスマナーⅠ・Ⅱ	必	4	4	136	136
		ビジネスＰＣ	必	3	1	102	34
		外国語Ⅰ・Ⅱ	必	4	4	136	136
		キャリア形成	必	2	2	68	68
		プログラミング言語Ⅰ・Ⅱ	必	4	4	136	136
		ＷＥＢデザインⅠ・Ⅱ	必	2	2	68	68
		データベースⅠ・Ⅱ	必	2	2	68	68
		システム開発 プロジェクトⅠ・Ⅱ	必	2	4	68	136
		校外演習	選		2		68
		合 計		25	27	850	918

〔注〕2部制（第1部：午前9時～午後1時5分、第2部：午後1時30分～午後5時35分）

※45分授業×1コマ、90分授業×2コマ

1限 9：00～ 9：45

2限 9：55～11：25

3限 11：35～13：05

4限 13：30～15：00

5限 15：10～16：40

6限 16：50～17：35

別表第 3

本校の入学金・授業料（第 2 5 条関係）

商業実務専門課程

学 科	I T エンジニア学科	
学 年	一年次	二年次
昼 夜 の 別	昼	昼
入学検定料	1 0 , 0 0 0 円	
入 学 金	7 0 , 0 0 0 円	
授 業 料	3 7 9 , 0 0 0 円	3 7 9 , 0 0 0 円
施 設 費	1 8 1 , 0 0 0 円	1 8 1 , 0 0 0 円

〔注〕授業料の納入は前期・後期の 2 回とし、それぞれ各半額を納入するものとする。

令和2年度 事業報告書

学校法人 愛和学園

1. 法人の概要

(1) 建学の精神

社会で立派に生きていける知識と技能を身につけ、加えて人の道をわきまえた学生を育むことが、本学園を建学した精神であり、今なお、信じてやまない教育の理念です。

現代の産業社会構造は益々複雑化の度を増し、急速な技術革新は目を見張るものがあります。国際化・情報化社会の進展とも相まって、世界的視野で人々が協力し、問題に対処していかなければならない時代がまいりました。

この社会の多様なニーズに対応できる能力を備え、併せて人間として、人として、明るく、誰からも愛され、信頼される人格を持った学生を育てることが、本学園の願いです。そのためには、常に教師と学生が手を携えて共に学ぶ姿勢をくずさず努力してほしいと思います。

学園は、知・技・心の三位一体を育む学び舎として、その実を上げることにより、たえず発展の歴史を刻んで行って欲しいと願ってやみません。

(2) 沿革

昭和27年	9月	小倉市米町において平和タイピスト学院として福岡県知事の認可を受ける
〃 32年	2月	小倉市大門2丁目へ移設
〃 41年	4月	ビジネス科・秘書科を新設
〃 42年	4月	鉄筋3階建の新校舎竣工と同時に学校法人松本学園の認可を受ける
〃 52年	4月	専修学校昇格に伴い、九州ビジネス専門学校に校名変更。同時に商業実務専門課程を新設
〃 58年	9月	高等課程を新設
平成6年	3月	高等課程を廃止
〃 6年	4月	文化教養専門課程を設置
〃 9年	3月	2号館（鉄骨6階建校舎）完成
〃 14年	8月	創立50周年記念事業 新1号館竣工
〃 14年10月		文化教養専門課程 日本語科新設
〃 19年	4月	衛生専門課程 製菓フードビジネス科新設
〃 21年	4月	商業実務専門課程 薬業ビジネス科新設

// 22年 3月 文化教養専門課程を廃止
 // 24年 4月 製菓・医療 九州ビジネス専門学校に校名変更
 日本アニメーション専門学校新設
 // 25年 4月 国際アニメーション専門学校に校名変更
 // 27年 4月 商業実務専門課程 IT科新設
 各種学校 愛和外語学院 設置認可
 // 28年 12月 学校法人愛和学園への変更認可を受ける
 令和 2年 4月 九州ビジネス専門学校に校名変更
 文化教養専門課程 総合日本語科新設
 令和 3年 4月 愛和システムエンジニア専門学校新設

(3) 設置する学校・学科および学生数の状況(令和3年5月1日現在)

九州ビジネス専門学校

(単位:人)

学科名	修業 年限	入学 定員	総定 員	1年 生	2年 生	合計
IT科	2	150	300	86	103	189
総合日本語科	1	50	50	21		21
合 計		200	350	107	103	210

国際アニメーション専門学校

学科名	修業 年限	入学 定員	総定 員	1年 生	2年 生	合計
アニメーション総合科	2	220	440	82	172	254
CG科	2	70	140	13	4	17
グローバルクリエイター科	2	80	160	75	3	78
国際IT基礎科	1	40	40	17		17
合 計		410	780	187	179	366

愛和システムエンジニア専門学校

学科名	修業 年限	入学 定員	総定 員	1年 生	2年 生	合計
ITエンジニア学科	2	80	160	49	21	70
合 計		80	160			

愛和外語学院

学科名		修業期間	入学 定員	1年 未満	1年 以上	合計
日 本 語 科	進学2年コース	24月	168	1	6	7
	進学1年9ヵ月コース	21月	40		1	1
	進学1年6ヵ月コース	18月	194		55	55
	進学1年3ヵ月コース	15月	40		1	1
合 計			442	1	63	64

(4) 役員の概要 (令和3年5月1日現在)

理事 (定数 7名)		
区 分	氏 名	就任年月日
理 事 長	阿部 浩二	平成23年 1月21日
常務理事	阿部 大輔	平成23年 1月21日
理 事	三苫 哲也	平成23年 4月 1日
理 事	山口 純	平成23年 4月 1日
理 事	浅尾 宏亨	平成24年 7月 1日
理 事	深江 新太郎	平成23年 1月21日
理 事	森瀬 拓海	平成23年 1月21日

監事 (定数 2名)		
監 事	山元 利公	平成24年 7月 1日
監 事	小野 佑佳	平成23年 1月21日

(5) 教職員の概要 (令和3年5月1日現在)

(単位:人)

区分		九州ビジネス 専門学校	国際アニメーシ ョン専門学校	愛和システムエン ジニア専門学校	愛和外語学院	合 計
教 員	本務	7	22	5	8	42
	兼務	24	15	15	15	69
職 員	本務	2	6	2	5	15
	兼務				1	1
合 計		33	43	22	29	127

2. 事業の概要

(1) 事業の概要

当学園を取り巻く環境において、業績に大きく影響する要素として、18歳人口の減少および、コロナウイルス感染症による外国人留学生の入国制限が挙げられます。18歳人口については、昨年までの横ばい状態から、今後減少に転じると予測されていること、外国人留学生については、昨年から引き続き、今後も入国の目途が立たない状態であり、学校経営および事業運営に与える影響が懸念されます。

(2) 主な事業の目的・計画およびその進捗状況

【九州ビジネス専門学校】

学生募集については、IT科・総合日本語科もとに入学定員の半数の入学となり、令和4年入学生獲得に向け、学園全体での募集態勢強化に努めてまいります。医療ビジネス科および製菓衛生師科にかわる新規学科の設置について、業界団体等へのヒアリングを通じて、現状でニーズの高い職種や今後需要が増加する職種の調査を継続し、学科の改廃や新設を行い、学校経営基盤の強化に取り組めます。

【国際アニメーション専門学校】

愛和システムエンジニア専門学校の令和3年4月設置認可により、学科改選を行った。音楽科をグローバルクリエイター科へ名称変更するとともに、動画制作に重点をおいたカリキュラムへ修正を行い、入学定員の94%の入学を達成した。しかし、その他学科においては、コロナウイルス感染症による外国人留学生の未入国や入国時期の遅延による日本語学校の在籍延長により、例年と比較し受験希望者の大幅減少となった。ITエンジニア学科として最後の卒業生については、就職希望者の100%内定を達成。引き続き、愛和システムエンジニア専門学校にて就職内定100%維持できるように学生指導に努めて参ります。

【愛和外語学院】

コロナウイルス感染症による来日制限により、新入生の減少および入国の遅延の影響で、在籍数が大幅に減少。今後は現地代理機関との関係強化や現地高等学校との提携、オンライン授業の強化等に取り組み他校との差別化により、優秀な学生の獲得を目指します。

資金収支計算書

令和2年4月 1日から
令和3年3月31日まで

(単位：千円)

収入の部	
科 目	金 額
学生生徒等納付金収入	481,638,625
手数料収入	9,174,820
補助金収入	313,906
付随事業・収益事業収入	6,429,532
受取利息・配当金収入	3,541
雑収入	23,114,210
借入金等収入	355,000,000
前受金収入	115,658,200
その他の収入	92,520,125
資金収入調整勘定	-187,613,420
前年度繰越支払資金	362,027,019
収入の部 合 計	1,258,266,558

支出の部	
科 目	金 額
人件費支出	328,387,055
教育研究経費支出	62,970,619
管理経費支出	18,128,009
借入金等利息支出	11,380,513
借入金等返済支出	224,290,054
施設関係支出	212,144,844
設備関係支出	24,972,596
資産運用支出	12,267,720
その他の支出	125,268,844
資金支出調整勘定	-28,332,055
翌年度繰越支払資金	266,788,359
支出の部 合 計	1,258,266,558

事業収支計算書

令和2年4月 1日から
令和3年3月31日まで

(単位：千円)

教育活動収支	事業活動収入の部	科 目	金 額
		学生生徒等納付金	481,638,625
		手数料	9,174,820
		経常費等補助金	313,906
		付随事業収入	6,429,532
		雑収入	23,114,210
	教育活動収入計	520,671,093	
	事業活動支出の部	科 目	金 額
		人件費	331,545,855
		教育研究経費	71,185,070
		管理経費	76,521,383
		教育活動支出計	479,252,308
教育活動収支差額		41,418,785	
教育活動外収支	事業活動収入の部	科 目	金 額
		教育活動外収入計	303,541
	事業活動支出の部	科 目	金 額
		教育活動外支出計	11,681,449
	教育活動外収支差額		-11,377,908
経常収支差額		30,040,877	
特別収支	事業活動収入の部	科 目	金 額
		特別収入計	
	事業活動支出の部	科 目	金 額
		特別支出計	
	特別収支差額		-2
基本金組入前当年度収支差額			30,040,875
基本金組入額合計			-84,065,066
当年度収支差額			-54,024,191
前年度繰越収支差額			-247,592,332
基本金取崩額			7,212,219
翌年度繰越収支差額			-294,404,304

貸借対照表

令和3年3月31日

(単位：千円)

資産の部	
科 目	金 額
固定資産	1,637,768,639
有形 固定 資産	1,562,648,343
土 地	759,813,771
建 物	679,108,118
そ の 他	123,726,454
その他の固定資産	75,120,296
流動資産	293,603,551
現 金 預 金	266,788,359
そ の 他	26,815,192
資産の部合計	1,931,372,190

負債の部	
科 目	金 額
固定負債	878,462,255
長 期 借 入 金	853,395,055
退職給与引当金	25,067,200
流動負債	227,661,514
短 期 借 入 金	67,771,773
未 払 金	8,346,728
前 受 金	115,658,200
預 り 金	34,953,813
仮 受 金	931,000
負債の部合計	1,106,123,769
純資産の部	
科 目	金 額
基本金	1,119,652,725
繰越収支差額	-294,404,304
純資産の部合計	825,248,421
負債及び純資産の部合計	1,931,372,190

財産目録

令和3年3月31日

(単位：千円)

科 目	金額
資産額	
基本財産	1,637,768,639
土 地	759,813,771
建 物	679,108,118
そ の 他	198,846,750
運用財産	293,603,551
現 金 預 金	266,788,359
そ の 他	26,815,192
資産額合計	1,931,372,190

科 目	金額
負債額	
固定負債	878,462,255
長 期 借 入 金	853,395,055
退職給与引当金	25,067,200
流動負債	227,661,514
短 期 借 入 金	67,771,773
未 払 金	8,346,728
前 受 金	115,658,200
預 り 金	34,953,813
仮 受 金	931,000
負債額合計	1,106,123,769
正味財産	825,248,421

令和3年5月28日

監査報告書

学校法人愛和学園

理事長 阿部 浩二 殿

学校法人愛和学園

監事 小野 佑佳



私たちは、私立学校法第37条第3校および学校法人愛和学園の寄附行為第8条の規定に基づき、学校法人愛和学園の令和2年度（令和2年4月1日から令和3年3月31日まで）の業務並びに財産の状況について監査を行いましたので、以下の通り、報告いたします。

1. 監査の方法

監事は理事会その他の重要な会議に出席するほか、理事等から事業の報告を聴取し、重要な決裁書類等を閲覧し、主要な関係部署において業務及び財産能状況を調査し掲載書類等の監査を実施しました。

2. 監査の結果

- （1）会計帳簿は、記載すべき事項を正しく記載し、計算書類等および事業報告書の記載と合致し、適法かつ正確に法人の収支状況を示していると認めます。
- （2）学校法人の業務または財産に関し、不正の行為または法令若しくは寄附行為に違反する重大な事実は認められません。

実務経験のある教員等による授業科目の一覧

【IT エンジニア学科】

1. 学科の目標

IT エンジニアとしての就職を念頭に、日本の IT 企業が行う新人研修の受講終了程度までプログラミング知識を身につける。すなわち、基本的なデータベースの CRUD 機能を有する Web アプリケーション・Web サービスを一人または複数人で開発できることを目指す。また開発現場における開発フローの体験や日本語で書かれた設計書の読み書き、チーム開発における他者とのコミュニケーション能力、プロジェクト管理能力、プレゼンテーション能力の育成も行う。

2. 実務経験のある教員等による授業科目

科目	シラバス	備考
ビジネス PC	個人で Web アプリケーションを作成する。各々が自由にテーマを策定することとし、データベース設計からクラス設計までを一人でこなす。同時にスケジュールやタスク管理の基礎を学ぶ。また開発終了後は、成果物発表を行う。	1 年/2 年 102/34 時間 教員 実務経験者
キャリア形成	各年の集大成として、チームワークによるシステム開発を行い、IT エンジニアのキャリアを経験する。開発工程の要件定義・設計・製造・テスト・リリースまでを体験し、各工程で必要となる成果物（設計書など）を理解する。開発終了後は、成果物発表会を行う。	1 年/2 年 68/68 時間 教員 実務経験者
プログラミング言語Ⅰ・Ⅱ	プログラムの概要と仕組み、開発環境の構築方法を知る。プログラミング言語 Java を使い、プログラミングの制御構造である「順次処理／条件分岐／繰り返し」を理解する。また応用として近年のプログラミング言語の主流である「オブジェクト指向」において、オブジェクトの関連性や相互作用を学習する。	1 年/2 年 136/136 時間 教員 実務経験者
Web デザインⅠ・Ⅱ	Web アプリケーションにおけるフロントサイド（ユーザーインターフェイス）の技術である HTML/CSS/Javascript を学習する。またそれらを補完する技術として Bootstrap や jQuery などのオープンソースライブラリも積極的に活用する。	1 年/2 年 68/68 時間 教員 実務経験者
データベースⅠ・Ⅱ	近代システムにおいて必須ミドルウェアである RDBMS（リレーショナルデータベースシステム）および SQL を学習する。RDBMS には、Postgresql および SQLite を採用する。基本的な CRUD 操作から、エンティティの抽出・テーブル設計・ER 図までを学ぶ。	1 年/2 年 68/68 時間 教員 実務経験者
システム開発プロジェクトⅠ・Ⅱ	市場ニーズの最も高い Web アプリケーションの開発手法を学ぶ。Java、HTML/CSS/Js、SQL を使用し、フロントサイドからサーバーサイドまでの開発を行う。フレームワークを使用せずに、Servlet+JSP でゼロからコーディングする。また MVC アーキテクチャによる最適な設計方法を学習する。	1 年/2 年 68/136 時間 教員 実務経験者

科目名		授業形式	必須・選択
コミュニケーションⅠ・Ⅱ (コミュニケーション)		講義・実習	必須
学科/学年		時間数	担当教員
ITエンジニア学科／1・2年		各年68時間	発句アミヌル
授業の概要			
現在、グローバル化により、私たちのコミュニケーションは大きく変容してきている。これからは、外国人とのコミュニケーションが求められる時代になる。そんな中で、文化の違いやお互いの意見を尊重しながらも、自分の意見を伝える必要がある。本科目では、コミュニケーションの基本を理解しつつ、活かし方			
科目の到達目標			
・自分の意見を伝える種類を理解する ・異なる文化を持った人とのコミュニケーションの特徴を理解する			
テーマ			
1	コミュニケーションとは	13	
2	コミュニケーションの種類	14	
3	異文化の理解	15	
4	アイデンティティの重要性	16	
5	アイデンティティの共有	17	
6	プレゼンテーション	18	
7	チームビルディング	19	
8	ケーススタディ	20	
9		21	
10		22	
11		23	
12		24	
(参考) 教材		評価基準	評価率
オリジナルテキスト		出席評価 実習評価	30% 70%

科目名		授業形式	必須・選択
ビジネスマナーⅠ・Ⅱ		講義・実習	必須
学科/学年		時間数	担当教員
ITエンジニア学科／1・2年		各年136時間	有田俊彰
授業の概要			
IT企業では、複数のメンバーでWebアプリケーションを開発する。その際、各自の役割への理解度や、共有事項等の報連相がチーム開発では非常に大切になる。本科目では、3～4名でのチームを作成し、フリーテーマでコンソールアプリケーションを開発を通して、チーム開発への理解を学ぶ。			
科目の到達目標			
・社会人になるための心構えを持ち、基礎的なビジネススキルを身に付け、主体的に動けるようになる ・タスクを期限内に行うことを徹底し、難しければ相談して調整できるようになる			
テーマ			
1	チーム開発での役割	13	
2	チーム開発での情報共有	14	
3	チーム開発	15	
4	成果物発表	16	
5	以後、3・4を繰り返す	17	
6		18	
7		19	
8		20	
9		21	
10		22	
11		23	
12		24	
(参考) 教材		評価基準	評価率
オリジナルテキスト		出席評価 実習評価	30% 70%

科目名		授業形式	必須・選択
ビジネスPC		講義・実習	必須
学科/学年		時間数	担当教員
ITエンジニア学科／1・2年		1年 102時間	三浦辰也
		2年 34時間	企業等からの講師派遣
授業の概要			
個人でWebアプリケーションを作成する。各々が自由にテーマを策定することとし、データベース設計からクラス設計までを一人でこなす。同時にスケジュールやタスク管理の基礎を学ぶ。また開発終了後は、成果物発表を行う。			
科目の到達目標			
・ Webアプリケーションのテーマ策定から実装までを一人で行うことができる ・ スケジュールやタスク管理を行うことができる ・ 問題が発生した場合、自分でトラブルシューティングができる			
テーマ			
1	テーマ策定	13	
2	スケジュール・タスク管理	14	
3	データベース設計	15	
4	クラス設計	16	
5	コーディング	17	
6	成果物発表	18	
7		19	
8		20	
9		21	
10		22	
11		23	
12		24	
(参考) 教材		評価基準	評価率
オリジナルテキスト		出席評価	30%
		実習評価	70%

科目名		授業形式	必須・選択
外国語Ⅰ・Ⅱ ※日本語の場合		講義	必須
学科/学年		時間数	担当教員
ITエンジニア学科／1・2年		1年 136時間 2年 136時間	丸山まどか
授業の概要			
日本での就職活動や、日本での生活に対応できる日本語の能力を身につける。日本語能力試験など資格試験対策はもちろん、日本語で意見・考えが伝えられるようコミュニケーション能力や作文能力も身につけさせる			
科目の到達目標			
・日本語能力試験（JLPT）N2に合格			
テーマ			
1	言語知識（文字語彙・文法）	13	
2	読解	14	
3	聴解・聴読解	15	
4	作文	16	
5	スピーチ・発表	17	
6		18	
7		19	
8		20	
9		21	
10		22	
11		23	
12		24	
(参考) 教材		評価基準	評価率
・中級を学ぶ 中級中期		出席評価	30%
・どんどんつながる漢字練習帳 中級		平常点	20%
・「日本語パワードリル」など日本語能力試験対策テキスト		定期試験	50%

科目名		授業形式	必須・選択
キャリア形成		講義・実習	必須
学科/学年		時間数	担当教員
ITエンジニア学科／1・2年		各年68時間	三浦辰也 企業等からの講師派遣
授業の概要			
各年の集大成として、チームワークによるシステム開発を行い、ITエンジニアのキャリアを経験する。開発工程の要件定義・設計・製造・テスト・リリースまでを体験し、各工程で必要となる成果物（設計書など）を理解する。開発終了後は、成果物発表会を行う。			
科目の到達目標			
・ チームによる大規模開発を体験する ・ 開発工程の上流工程から下流工程までを経験し、各工程の成果物を理解する ・ GitやWBS／ガントチャートによるタスク管理の手法を理解する			
テーマ			
1	UML	13	
2	詳細設計書	14	
3	コーディング	15	
4	検査項目書	16	
5	検査実施	17	
6	WBS・ガントチャート	18	
7	Git	19	
8		20	
9		21	
10		22	
11		23	
12		24	
(参考) 教材		評価基準	評価率
オリジナルテキスト		出席評価 実習評価	30% 70%

科目名		授業形式		必須・選択	
プログラミング言語Ⅰ		講義・実習		必須	
学科/学年		時間数		担当教員	
ITエンジニア学科／1年		136時間		三浦辰也 企業等からの講師派遣	
授業の概要					
プログラムの概要と仕組み、開発環境の構築方法を知る。プログラミング言語Javaを使い、プログラミングの制御構造である「順次処理／条件分岐／繰り返し」を理解する。また応用として近年のプログラミング言語の主流である「オブジェクト指向」において、オブジェクトの関連性や相互作用を学習する。					
科目の到達目標					
・ 一人で開発環境を構築し、プログラムの作成から実行までを行うことができる ・ 基本制御構造を理解し、最適なアルゴリズムで課題を解決できる ・ オブジェクト指向のメリットと使いどころを理解し、適切にクラス設計ができる					
テーマ					
1	プログラミング基礎	13	継承		
2	開発環境構築	14	インターフェイス・抽象クラス		
3	変数	15	パッケージ		
4	式・演算子	16	例外		
5	条件分岐	17	ファイル入出力基礎		
6	繰り返し	18	スレッド		
7	配列	19			
8	オブジェクト指向概論	20			
9	クラス基礎Ⅰ	21			
10	クラス基礎Ⅱ	22			
11	クラスライブラリの利用	23			
12	コレクションフレームワーク	24			
(参考) 教材			評価基準		評価率
・ やさしいJava (SBクリエイティブ) ・ やさしいオブジェクト指向(SBクリエイティブ)			出席評価 実習評価		30% 70%

科目名		授業形式	必須・選択
WebデザインⅠ		講義・実習	必須
学科/学年		時間数	担当教員
ITエンジニア学科／1年		136時間	三浦辰也 企業等からの講師派遣
授業の概要			
Webアプリケーションにおけるフロントサイド（ユーザーインターフェイス）の技術であるHTML/CSS/Javascriptを学習する。またそれらを補完する技術としてBootstrapやjQueryなどのオープンソースライブラリも積極的に活用する。			
科目の到達目標			
・一人で開発環境を構築し、静的なWebサイトを制作することができる ・トレンドにあったデザインを選択し、最適なユーザーインターフェイスを実現できる ・JavascriptやjQueryを使い、動的でリッチなWebサイトを制作することができる			
テーマ			
1	開発環境構築	13	
2	HTML	14	
3	CSS	15	
4	Bootstrap	16	
5	JavaScript	17	
6	jQuery	18	
7	WebAPI	19	
8	自己紹介ページ制作	20	
9	成果物発表	21	
10		22	
11		23	
12		24	
(参考) 教材		評価基準	評価率
・ スラスラわかるHTML&CSSのきほん(SBクリエイティブ) ・ いちばんやさしいJavaScriptの教本(インプレス)		出席評価 実習評価	30% 70%

科目名		授業形式		必須・選択	
データベースⅠ		講義・実習		必須	
学科/学年		時間数		担当教員	
ITエンジニア学科／１年		１３６時間		三浦辰也 企業等からの講師派遣	
授業の概要					
近代システムにおいて必須ミドルウェアであるRDBMS（リレーショナルデータベースシステム）およびSQLを学習する。RDBMSには、PostgresqlおよびSQLiteを採用する。基本的なCRUD操作から、エンティティの抽出・テーブル設計・ER図までを学ぶ。					
科目の到達目標					
・ SQLでSELECT/INSERT/UPDATE/DELETEを使いこなすことができる ・ 対象システムにおいて、エンティティの抽出/カラムの定義/正規化ができる ・ ER図の読み方と作成方法を理解している					
テーマ					
1	RDMS環境構築	13			
2	SELECT	14			
3	WHERE	15			
4	GROUP BY / HAVING	16			
5	INNER / OUTER JOIN	17			
6	DDL	18			
7	テーブル設計	19			
8	ER図	20			
9	JDBC	21			
10		22			
11		23			
12		24			
(参考) 教材			評価基準		評価率
・ SQL書き方ドリル (技術評論社)			出席評価 実習評価		３０％ ７０％

科目名		授業形式	必須・選択
システム開発プロジェクトⅠ		講義・実習	必須
学科/学年		時間数	担当教員
ITエンジニア学科／1年		68時間	三浦辰也 企業等からの講師派遣
授業の概要			
市場ニーズの最も高いWebアプリケーションの開発手法を学ぶ。Java、HTML/CSS/Js、SQLを使用し、フロントサイドからサーバーサイドまでの開発を行う。フレームワークを使用せずに、Servlet+JSPでゼロからコーディングする。またMVCアーキテクチャによる最適な設計方法を学習する。			
科目の到達目標			
・ 基本的なCRUD機能を持つWebアプリケーションの開発手法を理解する ・ MVCアーキテクチャによる最適なクラス設計ができる ・ フロントサイドからサーバーサイドまでの技術を身に着ける			
テーマ			
1	サーバー構築	13	
2	HTTP	14	
3	サーブレット	15	
4	JSP	16	
5	セッション・ログイン・カート	17	
6	MVCモデル	18	
7	Webとデータベース	19	
8		20	
9		21	
10		22	
11		23	
12		24	
(参考) 教材		評価基準	評価率
・ やさしいJava活用編 (SBクリエイティブ)		出席評価 実習評価	30% 70%

進級・卒業の要件等
(成績評価基準・進級、卒業の認定基準)

1. 評価及び試験

1-1. 定期試験若しくは実習課題は全学期行う

評定は 100 点法（試験若しくは実習評価 70 点、平常点 30 点）

平常点は教科担当教員が実施

各試験で 40 点に達しない場合は、追試験を実施

1-2. 成績表示は次の区分によって A・B・C・D・E の 5 段階とし、E は不合格とする。

A 100 点 ～ 90 点

B 89 点 ～ 80 点

C 79 点 ～ 60 点

D 59 点 ～ 40 点

E 40 点未満

就職内定者 原則、優以上付与

法定伝染病による欠席者（要証明書）の場合、直近試験の 70 % の点数もしくは 40 点

1-3. 追試験若しくは追加実習課題

定期試験若しくは実習課題において 40 点未満の場合は、追試験若しくは追加実習を行う。

科目別出席率が 3 分の 2 以下の者は、与えられた課題を期日までに提出し、合格した者のみ

追試験受験資格を与える。合格と認められた場合は 40 点の評価とする。追試験は有料とする。

(1 科目につき 3,000 円を徴収する)

1-4. 学年全体評価

年 2 回の評価及び試験（前期：7 月・後期 2 月）を実施し、全体の合計点から平均点を算出する。

成績判定会議にて相対評価を行い学年の成績評価とする

2. 卒業及び進級認定

卒業・進級の判定は校長が招集する判定会議で行い、次の各項に該当した場合は卒業及び進級を認める。

①年間出席日数若しくは年間出席時数が出席すべき日数及び時数の、3 分の 2 以上のもの

②履修単位が卒業時 100 単位（進級時 50 単位）以上のもの

2020 年 3 月

学校法人愛和学園

愛和システムエンジニア専門学校

校長 阿部浩二

1. 教育理念・目標

	評価項目	適切	やや適切	やや不適切	不適切
1	学校の理念・目的・育成人材像は定められているか (専門分野の特性が明確になっているか)	100%	0%	0%	0%
2	学校における職業教育の特色は明確になっているか	100%	0%	0%	0%
3	社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	100%	0%	0%	0%
4	学校の理念・目的・育成人材・特色・将来構想などが保護者等に周知されているか	20%	40%	40%	0%
5	各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向付けられているか	100%	0%	0%	0%

2. 学校運営

	評価項目	適切	やや適切	やや不適切	不適切
1	目的等に沿った運営方針が策定されているか	100%	0%	0%	0%
2	運営方針に沿った事業計画が策定されているか	60%	40%	0%	0%
3	運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	60%	40%	0%	0%
4	教務、財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	40%	60%	0%	0%
5	業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	40%	60%	0%	0%
6	教育活動等に関する情報公開が適切になされているか	60%	40%	0%	0%
7	情報システム化等による業務の効率化が図られているか	80%	20%	0%	0%

3. 教育活動

	評価項目	適切	やや適切	やや不適切	不適切
1	教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	80%	20%	0%	0%
2	教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	100%	0%	0%	0%

3	学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	80%	20%	0%	0%
4	キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	100%	0%	0%	0%
5	関連分野の企業・関連施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	80%	20%	0%	0%
6	関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技・実習等）が体系的に位置づけられているか	80%	20%	0%	0%
7	授業評価の実施・評価体制はあるか	40%	60%	0%	0%
8	職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	80%	20%	0%	0%
9	成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか	100%	0%	0%	0%
10	資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	60%	40%	0%	0%
11	人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	100%	0%	0%	0%
12	関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務・兼務含む）を確保するなどマネジメントが行われているか	60%	40%	0%	0%
13	関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研究や教員の指導力育成など資質向上のための取り組みが行われているか	20%	80%	0%	0%
14	職員の能力開発のための研修等が行われているか	0%	100%	0%	0%

4. 学修成果

	評価項目	適切	やや適切	やや不適切	不適切
1	就職率の向上が図られているか	100%	0%	0%	0%
2	資格取得率の向上が図られているか	60%	40%	0%	0%
3	退学率の低減が図られているか	100%	0%	0%	0%
4	卒業生・在校生の社会的な活動及び評価を把握しているか	100%	0%	0%	0%
5	卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用しているか	100%	0%	0%	0%

5. 学生支援

	評価項目	適切	やや適切	やや不適切	不適切
--	------	----	------	-------	-----

1	進路・就職に関する支援体制は整備されているか	100%	0%	0%	0%
2	学生相談に関する体制は整備されているか	100%	0%	0%	0%
3	学生に対する経済的な支援体制は整備されているか	80%	20%	0%	0%
4	学生の健康管理を担う組織体制はあるか	60%	40%	0%	0%
5	課題活動に対する支援体制は整備されているか	60%	40%	0%	0%
6	学生の生活環境への支援は行われているか	60%	40%	0%	0%
7	保護者と適切に連携しているか	0%	20%	60%	20%
8	卒業生への支援体制はあるか	20%	60%	20%	0%
9	社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	80%	20%	0%	0%
10	高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取り組みが行われているか	20%	20%	20%	40%

6. 教育環境

	評価項目	適切	やや適切	やや不適切	不適切
1	施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるように整備されているか	40%	60%	0%	0%
2	学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	40%	60%	0%	0%
3	防災に対する体制は整備されているか	20%	80%	0%	0%

7. 学生の受入れ募集

	評価項目	適切	やや適切	やや不適切	不適切
1	学生募集活動は、適正に行われているか	100%	0%	0%	0%
2	学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	100%	0%	0%	0%
3	学納金は妥当なものとなっているか	100%	0%	0%	0%

8. 財務

	評価項目	適切	やや適切	やや不適切	不適切
--	------	----	------	-------	-----

1	中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	20%	60%	20%	0%
2	予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	60%	20%	20%	0%
3	財務について会計監査が適切に行われているか	60%	20%	20%	0%
4	財務情報公開の体制整備はできているか	20%	80%	0%	0%

9. 法令等の遵守

	評価項目	適切	やや適切	やや不適切	不適切
1	法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	80%	0%	20%	0%
2	個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	100%	0%	0%	0%
3	自己評価の実施と問題点の改善を行っているか	80%	20%	0%	0%
4	自己評価結果を公開しているか	40%	60%	0%	0%

10. 社会貢献・地域貢献

	評価項目	適切	やや適切	やや不適切	不適切
1	学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	0%	80%	0%	20%
2	学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	20%	20%	40%	20%
3	地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか	40%	40%	0%	20%

1. 実務経験のある教員等による授業科目の配置

学校名	愛和システムエンジニア専門学校
設置者名	学校法人愛和学園

1－1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

課程名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数又は授業時数	省令で定める基準単位数又は授業時数	配置困難
商業実務専門課程	IT エンジニア学科	夜・通信	1,700 単位時間	160 単位時間	
(備考)					

1－2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

事務室窓口にて閲覧可能 ※学生及び保護者には書面でも配布

1－3. 要件を満たすことが困難である学科

学科名 該当なし
(困難である理由)

2. 学外者である理事の複数配置

2-1. 理事（役員）名簿の公表方法

事務室窓口にて閲覧可能

2-2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	株式会社従業員	2020.4.1～ 2024.3.31	学識経験者としてコンプライアンスの構築と維持・管理に関する助言
常勤	株式会社役員	2020.4.1～ 2024.3.31	学識経験者として経営・運営全般に関する助言
(備考)			

3. 厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。	
(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要) 1月 下記の点について成果を反映し、検討および改善を行う 就職状況 業界の動向および課題 資格試験の結果 校外実習の状況 2月 学科長より次年度シラバスの作成を行い、講師会議および職員会議を開催し、認定を行う※上記内容から到達目標、授業の内容、方法等について追加修正を行う 4月 シラバスの公表(冊子) 学生・保護者	
授業計画書の公表方法	事務室窓口にて学生便覧閲覧可能
2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。	
(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要) 細則(1)教務規定 <u>4. 評定</u> ①評定は100点法(定期試験又は実習試験の評価点70点、平常点30点)とする。 ※定期試験又は実習試験の評価の70点は各科目ごとの基準によって評価。 ②評定は次の区分によってA・B・C・D・Eの5段階とし、Eは不合格とする。 A:100点～90点 B:89点～80点 C:79点～60点 D: 59点～40点 E:40点未満 <u>3. 試験</u> ④各試験で40点に達しない場合は、下記の追試験を行う。 追試験は有料とし、1科目につき3,000円を徴収する。 追試験合格と認められた場合は40点の評定とする。 ⑤ 学内定期試験時間割は、開始1週間前に発表する ⑥試験開始10分経過後の入室及び時間終了前の退出は禁止する ⑦試験未受験の科目については、特別の場合を除いてその科目の評価を0点とする ⑧ 不正行為を行った場合は、その科目の評価を0点とする	
3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。	

（客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要） 年２回の校内試験（前期：７月・後期：２月）を実施し、全体の合計点から平均点を算出する。成績判定会議にて相対的評価を行い学年の成績評価とする。	
客観的な指標の 算出方法の公表方法	事務室窓口にて閲覧可能 次年度以降は Web 上で閲覧できるようにする予定
４．卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。	
（卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要） 細則（１）教務規定 <u>５．卒業及び進級認定</u> 卒業・進級の判定は校長が招集する判定会議で行い、次の各項に該当した場合は卒業及び進級を認める。 ①年間出席時数が出席すべき時数の、８０％以上のもの ②履修単位が１００単位（進級時は５０単位）以上のもの ※学生及び保護者：年２回（前期・後期）成績表を郵送	
卒業の認定に関する 方針の公表方法	事務室窓口にて閲覧可能

4. 財務・経営情報の公表（専門学校）

4－1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	法人事務局にて閲覧可能
収支計算書又は損益計算書	
財産目録	
事業報告書	
監事による監査報告（書）	

4－2. 教育活動に係る情報

①学科等の情報

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士	
商業実務		商業実務 専門課程	IT エンジニア学科	申請中		
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類			
			講義	演習	実習	実験
2 年	昼	1,700 単位時間／単位	816 単位時間 ／単位	884 単位時間 ／単位		
			1,700 単位時間／単位			
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数
160人		70人	70人	5人	0人	5人

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
（概要） ●IT エンジニア学科 1 年 学科の目標 学習する主たるプログラミング言語は Java であるが、同時に HTML/CSS/JavaScript・SQL・UMLなどをサーバーサイド開発に必須の技術も習得する。 ●IT エンジニア学科 2 年 学科の目標 プログラミング技術のみならず、開発要件のドキュメントの作成方法、グループ開発を取り入れ、開発現場における即戦力人材育成を教育する。

成績評価の基準・方法			
（授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要）			
細則（１）教務規定			
4. 評定			
①評定は１００点法（定期試験又は実習試験の評価点７０点、平常点３０点）とする。 ※定期試験又は実習試験の評価の７０点は各科目ごとの基準によって評価。			
②評定は次の区分によってＡ・Ｂ・Ｃ・Ｄ・Ｅの５段階とし、Ｅは不合格とする。 Ａ：１００点～９０点 Ｂ：８９点～８０点 Ｃ：７９点～６０点 Ｄ：５９点～４０点 Ｅ：４０点未満			
3. 試験			
④各試験で４０点に達しない場合は、下記の追試験を行う。 追試験は有料とし、１科目につき３,０００円を徴収する。 追試験合格と認められた場合は４０点の評定とする。			
⑤ 学内定期試験時間割は、開始１週間前に発表する			
⑥試験開始１０分経過後の入室及び時間終了前の退室は禁止する			
⑦試験未受験の科目については、特別の場合を除いてその科目の評価を０点とする			
⑧ 不正行為を行った場合は、その科目の評価を０点とする			
卒業・進級の認定基準			
（概要）			
細則（１）教務規定			
5. 卒業及び進級認定			
卒業・進級の判定は校長が招集する判定会議で行い、次の各項に該当した場合は卒業及び進級を認める。			
①年間出席時数が出席すべき時数の、８０％以上のもの			
②履修単位が１００単位（進級時は５０単位）以上のもの			
※学生及び保護者：年２回（前期・後期）成績表を郵送			
学修支援等			
（概要）			
各クラスに１名、担任を配置し、学生の出席状況の把握、修学支援、進路支援等を個別で実施。定期的な就職支援を実施。			

卒業者数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業者数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
１６人 （１００％）	２人 （１２.５％）	１２人 （７５.０％）	２人 （１２.５％）
（主な就職、業界等）			
IT業界のプログラマー・システムエンジニアなどのIT技術職全般			

(就職指導内容) キャリア形成、個人面談、就職セミナー、履歴書指導、面接指導
(主な学修成果（資格・検定等）) Oracle Certified Java Programmer Java プログラミング検定 日本語能力試験
(備考) (任意記載事項)

中途退学の現状		
令和2年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
40人	2人	5%
(中途退学の主な理由) 在留期間更新の不許可		
(中退防止・中退者支援のための取組) 卒業後の進路に対し、目的意識をもって学校生活を過ごすように指導。 担任及び事務局による補講及び面談に取り組んでいる。		

②学校単位の情報

a)「生徒納付金」等

学科名	入学金	授業料 (年間)	その他	備考 (任意記載事項)
IT エンジニア 学科	70,000円	379,000円	351,000円	
修学支援（任意記載事項）				